



# CO2削減量

### 羽毛リサイクルによるCO2排出削減

#	改善項目	詳細	効果(概算数値)
1	一般用リサイクル	焼却から 循環資源へ	数値: 246t-CO2の排出削減 対象期間: 2015年6月~2019年9月 注)現在も継続中
2	業務用 リサイクル	焼却から 循環資源 <b>へ</b>	数値: 144t-CO2の排出削減 対象期間: 2014年3月~2018年2月 注)現在も継続中

### 他プロジェクトによるCO2排出量削減

#	改善項目	詳細	効果(概算数値)
1	小型貫流蒸気 ボイラー(2台)	重油から LPガスへ	数値: 66t-CO2/年の二酸化炭素排出量削減 (対象期間: 2014年8月~現在)
2	<ul><li>・小型貫流蒸気 ボイラー</li><li>・水冷式コンプ レッサー</li><li>・焼却炉</li></ul>	使用時に 熱回収	数値: 310t-CO2/年の二酸化炭素排出量削減 対象期間: 2018年3月~2019年2月 使用時に熱回収を行い、65℃の温水 (2,000t/年)を生成





# 公的プロジェクトへの参加(一部)

#### 2020年11月

経済産業省、環境省及び農林水産省とのCO2削減プロジェクト「J-クレジット制度」に正式認証



#### 2020年10月

経済産業省主催のCO2削減プロジェクト「J-クレジット制度」の中部地区代表事例として講演(250社参加)



#### 2020年4月

環境省主催のCO2削減プロジェクト 「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定 支援事業」に全国17社が選出











## クリーンなエネルギーを

重油式ボイラーからLPガス式ボイラーへ変更

LPガス式ボイラーを導入し (2014年~) 286t-CO2の二酸化炭素排出量削減を達成 (66t-CO2削減/年)

対象期間: (Jクレジット制度の利用を伴う開始)

2015年11月18日~現在

#### 詳細:

- 1. J-クレジット制度を利用し、重油からLPガス使用ボイラーへ変更
- 2. 変更後の出力は20%アップ、ボイラー数を3台から2台へ削減
- 3. 重油式では燃焼レベルを3段階しか選べなかったが、 LPガス式では自由調整が可能となり、効率化も実現
- 4. J-クレジットは三重県で開催するイベントや大会に寄付予定

#### J-クレジット登録証



#### LPガスボイラー









# クリーンなエネルギーへ

#### 熱回収や電力削減でCO2削減

・熱回収で310t-CO2/年の二酸化炭素排出量削減を達成 対象期間:2018年3月~現在

#### 詳細:

ボイラー使用時、コンプレッサー発熱時および焼却使用時に熱回収 65 ℃の温水(年間2,000t/ℓ)を生成

・水冷式エアコン導入で冷却効率を約70%アップ

対象期間:2006年~現在

#### 詳細:

以前の空冷式から、16℃の地下水を汲み上げ使用する、 水冷式エアコンへ変更 エアコン台数は以前の3台から現在は1台へ

→冷却効率化を達成

#### ボイラーや焼却炉から熱回収



#### 水冷式エアコン











# 設備投資及び電力削減の両立を

- 白色光触媒テントについて
- ①照明不要な白色光触媒テント(太陽工業(株)セルフマックス K)を作業用テント(3箇所)に使用し、照明の不使用を達成
- ②雨でも作業可能、汚れも非常につきにくい特性を持つ
- ・屋根の特性断熱材について

工場屋根に特製の断熱材を設置して外気の影響を抑え、 施設内の空調使用度の削減

#### 照明不要な白色光触媒テントを使用



#### 工場屋根に特製の断熱材を設置







# 再生エネルギーの導入

2021年11月

再エネ100宣言 RE Action協議会主催の「再エネ100宣言 RE Action」に参加羽毛業界全国初、寝装業界全国2番目、アパレル全国2番目

2022年4月

本社工場の電力は100%再エネを導入

# 再工ネ100宣言 《ARE Action》

◇再エネ100宣言 RE Actionとは:

遅くとも2050までに、企業、自治体、教育機関、医療機関などの団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、

再エネ100%利用を促進する新たな枠組みです。

再エネ100宣言RE Action 公式ウェブサイトURL: https://saiene.jp



## 焼却物を再利用してCO2削減を

羽ゴミ、アカやホコリを再利用してCO2削減を

・羽ゴミの再利用

約40tの羽ゴミを肥料または飼料として再利用(写真中部)

対象期間:1999年~現在

・アカやホコリの再利用

羽毛のアカやホコリを利用し、特殊段ボールの開発 約4,500kgを80万個分の段ボールに再利用し、

9.000kg-CO2の二酸化炭素の排出削減

対象期間:2009年6月~現在

•商品(右)は愛媛県エコ素材・製品としても紹介 参照リンク:

https://www.pref.ehime.jp/h15700/documents/34 kpedanboul.pdf 当社からアカ・ホコリをカミ商事株式会社様へ販売し、 カミ商事株式会社にて最終製品・販売が行われている。





#### 本来であれば焼却される羽ゴミなど



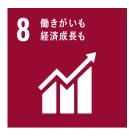
羽ゴミを混ぜた肥料により成長促進(右)



撥水保温放冷機能付き再生可能段ボール









# 現在の取り組み(事例紹介)

### 使用済み羽毛製品を回収し「リサイクル羽毛」として再生、CO2削減へ

<羽毛のリサイクル事業における役割>

回収:各行政、社会福祉協議会及びアパレル・寝装メーカー

解体:障がい者福祉サービス事業所「ありんこ」

生産:河田フェザー(以下「KWD」とも表記)

販売:アパレル・寝装メーカー

普及:テレビ・新聞・雑誌などの各メディア

### 他プロジェクトでCO2排出量削減へ

- 1. 経済産業省及び環境省協賛のCO2削減プロジェクト参加 (2015/11) 重油からLPガス式ボイラーへの設備投資
- 2. 環境省主催のCO2削減プロジェクト参加(2020/4) 「中小企業向けSBT・再エネ100%目標設定支援事業」参加
- 3. 国連関連機関主催のCO2削減プロジェクト参加(2020/11)「Science Based Target」へ登録 羽毛業界世界初、寝装業界日本初





